

# 破局の理論

第6航空団司令

空将補 織田 邦男

## 1 事故の発生時期を予見できる？

部隊指揮官にとって、事故がいつ起こるかを予見できれば、これほど楽なことはない。その時に備え、万全の体制をとり、未然に防止できるからである。敵の侵攻に先駆け、攻撃開始時期が把握できるようなものである。なんとか事故が起こる頃合だけでも掴めないものであろうか。こういう指揮官の願いに、ヒントになる理論がある。

25年くらい前になるであろうか、「破局の理論」というのがマスコミを騒がせたことがある。この理論を一言で言うと、何事も「不連続点」で「破局」を迎える、つまりは不連続点で事故が起こるということである。実際には「不連続点」という言葉ではなく、“threshold”、つまり「出発点、限界点」という言葉が使われているが、訳としては「不連続点」の方が適切と考える。では、「不連続点」とは何か。

物事には「動」と「静」、「生」と「死」、「天」と「地」といった両極があり、その接点には「不連続点」が存在し、そこで破局が生じ易い。もっと判わかり易く言うと、「春」から「夏」と言った季節の変わり目、「年末」から「年始」へはお正月という、また「独身」から「妻帯」へは結婚という不連続点があり、この不連続点では人間の情緒は不安定になり易く、どうしても事故が起こり易いというわけだ。

なるほど、季節の変わり目には病気になり易く、自殺者も多い。「動」と「静」の不連続点である交差点における事故は交通事故の大半を占めている。また「地上」と「空中」の不連続点である離着陸時における事故も航空事故の大半を占めている。低気圧と高気圧の間には前線という不連続域が存在し、雷や突風、風雨等による災害が起き易い。「生」と「死」の間には「出産」や「死亡」という不連続点があり、お釈迦様も「生、老、病、死」という人生の四大「苦」だと説いておられる。またバイオリズムも「正」と「負」の逆転する時期が要注意だと指摘しているのは、この理論を裏付けているようにも思える。

## 2 我が部隊の「不連続点」は？

「破局の理論」の視点から過去の事故等を振り返ってみると、この理論は実に多くのことを実証しているようだ。

指揮官の異動時期と季節の変わり目、そして年度末という3つの不連続点が重なる初春の航空事故、交通事故、あるいは服務事故は実に多い。また、演習中ではなく、演習終了後の部隊移動時という不連続点にも事故は意外と

多い。結婚直後、あるいは妻の出産前後にパイロットが殉職したという痛ましい事故の多さには驚かされる。異動直後に自殺、あるいは事故を起こした例も多い。恥ずかしながら、我が部隊の飲酒運転事例も3月上旬と6月という季節の変わり目に発生している。小生の経験でも空中戦闘訓練が終了し“Knock It off！”を号令してホッとした瞬間、僚機と空中衝突しそうになったことがあった。訓練の真っ最中のみならず、不連続点といえる訓練終了時点こそ注意すべきタイミングであることを九死に一生を得て悟った。また、硫黄島移動訓練での移動中に天候急変で指揮下の2機を失いそうになったこともある。

どうやら、「不連続点」では、人間のみならず、天地宇宙を含む自然自体が不安定性を生起するのは確かなようだ。従って、部隊指揮官としては、自分の部隊の隊務運営にあたって、何が「不連続点」であるかを看破し、これに焦点を合わせた安全活動を集中して実施することが重要となる。あらゆる

手段を尽くして自分の部隊の「不連続点」を見つけ出すことは指揮官の重大な責務であり、それは戦いにおいて「勝機」あるいは「戦機」を看破するのが指揮官の最も重要な責務であるのと全く同じなのである。

この理論が語りかける警告に謙虚に耳を傾け、事故要因を待ち伏せし、未然に防止することは安全確保の重要な手段の一つと言えよう。そういう意味で「破局の理論」は名参謀といえ、活用しない手はないだろう。

### **3 張り詰めた弓は弱い**

事故の度に、事故原因として「注意力不足」、「安全意識の希薄」、「警戒心の欠如」等々が指摘されることが多い。人間の「力」や「意識」は、ある意味では有限であり、スーパーマンでない限り、常に「注意力」を働かせ、「安全意識」を旺盛にしていることは事実上難しい。「力」が有限であるからこそ、緊要な時期と場所に集中志向すべしという「集中の原則」が適用されなければならない。これを無視して、お題目のように「旺盛な安全意識、注意力」を要求することは、「所要に満たない戦力の逐次投入」という、最も指揮官として卑しむべき愚策を遂行するのと同様である。古来から「張り詰めた弓は弱い」と言われる。「メリハリ」が要求される所以でもある。

部隊指揮官としては、持てるセンサーを駆使して「弓を張る」時期を如何に看破し、各員の注意を喚起し、事故要因という敵に先手を打って安全活動を集中実施し、これを未然に防止するかが問われており、「弓を張る」時期という勝機の捕捉には「破局の理論」の考え方は一つの重要なヒントを提供していると考えられるが如何であろうか。